

洛西

魚見航大さん(右)とともに靴を磨く藤井琢裕さん
京都府下京区・大丸京都店

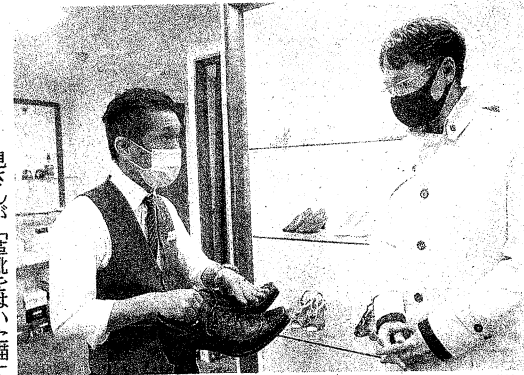


苦手だった声掛けを練習し、接客に積極的になった

FILM PRINT
DIGITAL PRINT
PORTRAIT



マスイカメラ
35mmフィルム
現像
即日仕上げ
店内で現像します
長岡京市今里3-9-2
TEL.075-955-4450
www.yasucamera.com



NEXT STAGE おとくに進化形

靴磨きの仕事を通して吃音を乗り越えた

藤井 琢裕さん (31) 向日市

「僕の靴磨きで、みんなを笑顔にしたい」。ブラシを素早く動かして汚れを取り、微妙に色の違うクリームを使いこなし、びかびかにしてお客さんに手渡す。吃音で邪険にされても前を向き、確かな技術をも身に付けた。障書のある後輩にコツを教え、自立できるように支えている。

向日小、向日が丘支援学校では自身の吃音が気になり、会話が苦手だった。笑顔を浮かべるものの、伝わりないものがしからず話すと自体が少なかったという。2009年に支援学校を卒業し、向日市にある障書総合支援センター「つれづれ」で働き始めた。

転機は、龍谷大が共生の理念を掲げてキャンパス内に建てた「カフェ樹林」の調理担当になったことだった。14年から龍谷大の学生チーム約20人がともに働き、イベントも催した。「コミュニケーションが取れるようになった。みんな優しく偏用してくれた」と振り返る。

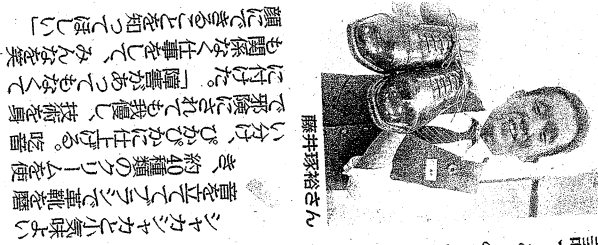
学生チームの一人に魚見航大さん(28) 京都府西京区にいた。魚見さんとは、障害のある人が職人となって自立できる仕事として靴磨きに着目。大阪市内の専門店に向いて技術を習得し、藤井さんたちに教えた。17年には魚

確かな技術で人を元気に

現在は、革靴をはいた猫と提携する大阪市の企業に所属し、大阪を中心に会社を訪問して10~30足の革靴を磨く。お客さんが靴を履いて歩く様子をイメージして磨き丁寧な仕上げが好評だ。

休日、樹林を訪れ、靴磨きを練習する後輩を教えることもある。「力加減のこつを身に付けてもらいたい。一緒に働けるようになったら、僕も嬉しい」と話す。学生チームのメンバーには近況報告のメールを欠かさない。食事を企画して仲間を大切にしている。

評判が広がり、東京からも依頼があるという。今後は靴の修理技術をも身に付け、仕事の幅を広げたいと考えている。「勇気を出して取り組めば、障書があるかどうかは関係ない。靴磨きは、人を元気にできることだ。世界中を回って多くの人を笑顔にしたいと夢を描く。(土中)



藤井琢裕さん

誰でもみんなを笑顔にできる

「シャキーンと小気味よい音を立てながら、革靴を磨き、約40種類のクリームを使い、びかびかに仕上げる。吃音で邪険にされても我慢し、技術を磨き上げた。」「障書があっても、みんなを笑顔にしたい。みんなを笑顔にしたい。」

2023.1.1

3種郵便物認可